

国 技 建 管 第 16 号  
平成 31 年 3 月 12 日

各地方整備局 技術調整管理官 殿  
北海道開発局 技術管理企画官 殿  
国土技術政策総合研究所 建設マネジメント研究官 殿

国土交通省  
大臣官房技術調査課  
建設システム管理企画室長  
(公印省略)

「平成 31 年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」について

施工パッケージ型積算方式標準単価表については、平成 30 年 3 月 20 日付け国技建管第 30 号により通知しているところであるが、別添のとおり定めたので通知する。  
また、標準単価表については、国土技術政策総合研究所ホームページにおいて公表することを申し添える。

#### 附則

本通知は、2019（平成 31）年 4 月 1 日以降に入札書提出期限日を設定している工事から適用する。

なお、「平成 30 年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」の策定について」（平成 30 年 3 月 20 日付け国技建管第 30 号）は、平成 31 年 3 月 31 日をもって廃止する。

国技建管第 16 号の 2  
平成 31 年 3 月 12 日

内閣府 沖縄総合事務局  
技術企画官 殿

国土交通省  
大臣官房技術調査課  
建設システム管理企画室長  
(公印省略)

「平成 31 年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」について

標記について、別添のとおり各地方整備局長等あて通知したので、貴局におかれましても準拠されたい。

(別 添)

平成31年度

## 施工パッケージ型積算方式標準単価表

(平成31年4月1日以降に入札書提出期限日を設定している  
工事から適用)

国土交通省

I.	施工パッケージ型積算方式標準単価表の見方	・ ・ ・	I
II.	標準単価から積算単価への補正方法	・ ・ ・ ・ ・	II - 1
II - 1.	補正式	・ ・ ・ ・ ・	II - 1
II - 2.	標準単価から積算単価への計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 2
	①地域及び時期の違いによる補正の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 2
	②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 3
	③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 4
	④時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例	・ ・ ・	II - 6
	⑤支給品がある場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 7
	⑥無償貸付機械がある場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 8
III.	物価変動に伴う標準単価及び機労材構成比の改定	・ ・ ・ ・ ・	III - 1
IV.	施工パッケージ 標準単価 一覧	・ ・ ・ ・ ・	IV

## I. 施工パッケージ型積算方式標準単価表の見方

施工パッケージ型積算方式標準単価表（以下「単価表」という。）は、施工パッケージ単位でとりまとめています。単価表に記載されている用語の定義は以下の通りです。

### ■条件区分

施工パッケージ型積算基準に定められた、各施工パッケージの積算条件区分一覧における条件区分です。

### ■標準単価

各条件区分に対応した、東京地区（東京 17 区）における基準年月（平成 31 年度版の基準年月は平成 30 年 4 月）の施工単位当たりの単価（円）です。この標準単価を基に地区や年月等の補正を行い、積算単価を算出します。

**（注）標準単価は、毎年度更新しています。更新の際には、実際の施工状況の変動や、標準単価を構成する個々の単価（機械経費単価・労務単価・材料単価・市場単価）の物価変動等を反映させて、標準単価を設定しています。**

### ■機労材構成比

標準単価に対する機械経費(K)、労務費(R)、材料費(Z)、市場単価(S)の金額構成比率です。なお、K、R、Zは機械経費、労務費、材料費それぞれの合計金額構成比率であり、K1～K3、R1～R4、Z1～Z4、Sは各代表的な規格の金額構成比率です。また、各合計金額構成比率(K、R、Z)は代表的な規格以外の金額も含むため、K1～K3、R1～R4、Z1～Z4の合計がK、R、Zと一致しない場合があります。

### ■代表機労材規格

「機労材構成比」で代表的な規格の金額構成比率を示した機械経費、労務費、材料費、市場単価の具体的な規格名称です。ただし、コンクリートやアスファルト等の材料規格については、最も代表的な材料規格のみを示しています。

### 留意事項

- (1) 単価表には、補正に使用する機械経費、労務単価、材料単価は記載していません。  
これらの単価等は土木請負工事工事費積算基準の定めにより下記の通りとなります。  
機械経費：請負工事機械経費積算要領  
労務単価：公共工事設計労務単価  
材料単価：物価資料等
- (2) 土木工事標準積算基準書等に記載している「代表機労材規格一覧」は、機械経費、労務費、材料費、市場単価の代表的な組合せのみを記載している場合等があり、単価表の記載内容と一致しないことがあります。その場合は、単価表の記載内容を適用するものとします。

## Ⅱ．標準単価から積算単価への補正方法

### Ⅱ－１．補正式

標準単価は、東京地区(東京 17 区)における基準年月(平成 30 年 4 月)の施工単位当たりの単価であることから、地域及び時期の違いによる補正を行い、積算単価にします。

標準単価(P)から積算単価(P')への補正は、各施工パッケージの機労材構成比を用い、下記の式により算出します。

$$P' = P \times \left\{ \left( \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} \right. \\ + \left( \frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \\ + \left( \frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

P'	: 積算単価(積算地区、積算年月)
P	: 標準単価(東京地区、基準年月)
Kr	: 標準単価における全機械(K1~K3, 他)の構成比合計
K1r~K3r	: 標準単価における代表機械規格 K1~3 の構成比
K1t~K3t	: 代表機械規格 K1~3 の単価(東京地区、基準年月)
K1t'~K3t'	: 代表機械規格 K1~3 の単価(積算地区、積算年月)
Rr	: 標準単価における全労務(R1~R4, 他)の構成比合計
R1r~R4r	: 標準単価における代表労務規格 R1~4 の構成比
R1t~R4t	: 代表労務規格 R1~4 の単価(東京地区、基準年月)
R1t'~R4t'	: 代表労務規格 R1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Zr	: 標準単価における全材料(Z1~Z4, 他)の構成比合計
Z1r~Z4r	: 標準単価における代表材料規格 Z1~4 の構成比
Z1t~Z4t	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(東京地区、基準年月)
Z1t'~Z4t'	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Sr	: 標準単価における市場単価 S の構成比
St	: 市場単価 S の所与条件における単価(東京地区、基準年月)
St'	: 市場単価 S の所与条件における単価(積算地区、積算年月)

標準単価から積算単価への補正方法は、地域及び時期の違いによる補正(下記①)に加え、下記②~⑥の補正が必要な場合があります。

- ① 地域及び時期の違いによる補正
- ② 代表材料以外の規格により積算する場合
- ③ 条件区分に実数入力を行い積算する場合
- ④ 時間外割増賃金や豪雪地域補正等を行う場合
- ⑤ 支給品がある場合
- ⑥ 無償貸付機械がある場合

## II-2. 標準単価から積算単価への計算例

### ①地域及び時期の違いによる補正の計算例

(施工パッケージ型積算基準の条件区分に基づき積算する場合)

- ・施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・条件区分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m<sup>3</sup> 以上 0.10t/m<sup>3</sup> 未満、基礎碎石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・標準単価：49,468 円

→ 大阪地区の H31.4 における積算単価を算出

表 1：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H30.4)(円)	大阪(H31.4)(円)
K		2.33	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m <sup>3</sup> /h	1.28	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.32	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.21	416	416
R		41.31	—	—
R1	普通作業員	14.86	20,200	18,700
R2	型わく工	9.64	25,100	24,100
R3	土木一般世話役	3.42	24,200	22,800
R4	特殊作業員	0.93	23,200	21,200
Z		44.27	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	28.73	13,900	16,500
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	13.49	72,000	71,500
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.47	74	69
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	0.50	110	113
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	12.09	66,500	51,500

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H31.4}) = 49,468$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left( \frac{1.28}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.32}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.33}{1.28 + 0.32 + 0.21} \right. \\
 & + \left( \frac{14.86}{100} \times \frac{18,700}{20,200} + \frac{9.64}{100} \times \frac{24,100}{25,100} + \frac{3.42}{100} \times \frac{22,800}{24,200} + \frac{0.93}{100} \times \frac{21,200}{23,200} \right) \times \frac{41.31}{14.86 + 9.64 + 3.42 + 0.93} \\
 & + \left( \frac{28.73}{100} \times \frac{16,500}{13,900} + \frac{13.49}{100} \times \frac{71,500}{72,000} + \frac{1.47}{100} \times \frac{69}{74} + \frac{0.50}{100} \times \frac{113}{110} \right) \times \frac{44.27}{28.73 + 13.49 + 1.47 + 0.50} \\
 & + \frac{12.09}{100} \times \frac{51,500}{66,500} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.33 - 41.31 - 44.27 - 12.09}{100} \right\} = 49,433.9673143 \dots \approx \mathbf{49,440}(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：高炉 18-8-25(20)、鉄筋量 0.08t/m<sup>3</sup> 以上 0.10t/m<sup>3</sup> 未満、  
基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、  
圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：49,468 円

→ 大阪地区の H31.4 における積算単価を算出

表 2：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H30.4)(円)	大阪(H31.4)(円)
K		2.33	—	—
	K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m <sup>3</sup> /h	51,800	51,800
	K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・ 直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	747	715
	K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	416	416
R		41.31	—	—
	R1	普通作業員	20,200	18,700
	R2	型わく工	25,100	24,100
	R3	土木一般世話役	24,200	22,800
	R4	特殊作業員	23,200	21,200
Z		44.27	—	—
	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	13,900	<u>16,300</u> (高炉 18-8-25(20))
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	72,000	71,500
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローラー	74	69
	Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	110	113
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	12.09	66,500	51,500

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H31.4}) = 49,468$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left( \frac{1.28}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.32}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.33}{1.28 + 0.32 + 0.21} \right. \\
 & + \left( \frac{14.86}{100} \times \frac{18,700}{20,200} + \frac{9.64}{100} \times \frac{24,100}{25,100} + \frac{3.42}{100} \times \frac{22,800}{24,200} + \frac{0.93}{100} \times \frac{21,200}{23,200} \right) \times \frac{41.31}{14.86 + 9.64 + 3.42 + 0.93} \\
 & + \left( \frac{28.73}{100} \times \frac{16,300}{13,900} + \frac{13.49}{100} \times \frac{71,500}{72,000} + \frac{1.47}{100} \times \frac{69}{74} + \frac{0.50}{100} \times \frac{113}{110} \right) \times \frac{44.27}{28.73 + 13.49 + 1.47 + 0.50} \\
 & + \frac{12.09}{100} \times \frac{51,500}{66,500} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.33 - 41.31 - 44.27 - 12.09}{100} \right\} = 49,229.1056512 \dots \approx \mathbf{49,230}(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。



③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例

1. 「基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)」  
 「基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)」  
 「排水性舗装・表層(車道・路肩部)」「透水性アスファルト舗装」の場合

- ・施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・条件区分：1.4m以上3.0m以下、1層当り平均仕上り厚 **70mm**、密粒度 As20  
 （締固め後密度 2.35t/m<sup>3</sup>）、タックコート PK-4
- ・標準単価：1,560.5円

→ 大阪地区の H31.4 における積算単価を算出

表3：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H30.4)(円)	大阪(H31.4)(円)
K		1.90	—	—
K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 舗装幅 1.4~3.0m (*賃料)	1.26	14,600	14,900
K2	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料)	0.26	3,540	3,540
K3	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料)	0.24	3,250	3,310
R		14.00	—	—
R1	普通作業員	4.98	20,200	18,700
R2	特殊作業員	3.43	23,200	21,200
R3	運転手 (特殊)	3.37	22,800	21,000
R4	土木一般世話役	1.19	24,200	22,800
Z		84.10	—	—
Z1	アスファルト混合物 密粒度 A S 混合物(20) (平均仕上り厚 50mm)	81.43	505,000 <sup>(注)</sup> (50mm×10,100円/t)	728,000 <sup>(注)</sup> (70mm×10,400円/t)
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.43	88.5	91
Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	0.23	110	113
Z4	—	—	—	—
S	—	—	—	—

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H31.4}) = 1,560.5$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left( \frac{1.26}{100} \times \frac{14,900}{14,600} + \frac{0.26}{100} \times \frac{3,540}{3,540} + \frac{0.24}{100} \times \frac{3,310}{3,250} \right) \times \frac{1.90}{1.26 + 0.26 + 0.24} \right. \\ & + \left( \frac{4.98}{100} \times \frac{18,700}{20,200} + \frac{3.43}{100} \times \frac{21,200}{23,200} + \frac{3.37}{100} \times \frac{21,000}{22,800} + \frac{1.19}{100} \times \frac{22,800}{24,200} \right) \times \frac{14.00}{4.98 + 3.43 + 3.37 + 1.19} \\ & + \left( \frac{81.43}{100} \times \frac{728,000}{505,000} + \frac{2.43}{100} \times \frac{91}{88.5} + \frac{0.23}{100} \times \frac{113}{110} \right) \times \frac{84.10}{81.43 + 2.43 + 0.23} \\ & \left. + \frac{100 - 1.90 - 14.00 - 84.10}{100} \right\} = 2,106.5236462 \dots \approx 2,107(\text{円/m}^2) \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

(注)アスファルト混合物の材料費(m<sup>2</sup>当り)は、**平均仕上り厚(mm) / 1,000 × 締固め後密度(t/m<sup>3</sup>) × 材料単価(円/t)**  
 $\times (1 + \text{ロス率})$ で算出するが、締固め後密度(t/m<sup>3</sup>)に応じた標準単価を選択するため、締固め後密度が同条件となることから、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれている。











































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































